

Principal Correspondence

幼小教育の本質

月刊文芸春秋（週刊文春ではありません）の特別企画，教育再生の特集で，作家で数学者の藤原正彦氏がこう発言されていました。

「Aは情報処理能力では馬鹿力を出せるかもしれないが、**美的感受性**を持たないため革新的な何かを生み出すことは難しいのです。だからこそ人間は小さいころから野山を駆け回って美しい自然に触れ，サッカーや野球をして遊び，模型飛行機を作って飛ばし，詩や物語を読んで涙を流すなど，様々な学習や**体験**をとおして**情緒的基盤**や，**美的感受性**を養っていかなければなりません。」



まさに幼小教育は，一見補助的な学び・・・体育，美術，音楽，芸術といった経験こそが生涯の基礎になり本当に役立つことを語っておられると思います（誤解のなきように付け加えますが国語や算数といった主要科目が必要ないということではありません）。

東京大学宇宙線研究所所長の，梶田隆章氏はこう発言します。

「教育の本質は『技能を身につけさせる』ということではなく、『人の力を伸ばす』ということにあるんでしょうね。」

この場合の「技能を身につけさせる」ということは知識や技術を教えるということ。それより大事な「人の力を伸ばす」ということは，**個々人の好きなこと得意なことを，自分で追及する力を身につけると言い換えられる**かもしれません。自分で，「これが好き」「これが得意」ということは思春期ぐらいになると自覚するようになります。それまでは幅広くいろいろな経験活動をして，自分の持つ可能性を探っていくことが必要です。

リリーベールはコロナ禍の様々な制約の中でも，幼小期の幅広い体験王国を目指します。



Principal Correspondence

コロナ禍での学習環境

世の中テレワーク・遠隔 IT 授業が注目されて、いかにもこれが今後の教育の主流のような雰囲気ですが、小学校教育の基本はあくまで「人と人の対面での経験活動と集団教育」です（先月もお話ししました）。

知識を学ぶのも集団だからこそ、競い合いもあり、励まし合いもあり、刺激とモチベーションにつながり、学力も高まるのです。

これまでコロナ禍の状況で、小・中・高校は休校を要請されましたが、逆に保育園・幼稚園・学童保育の開催を要請されてきたのは、なんだか矛盾しているような気はします。しかし登園する子、あるいは毎日家庭で過ごす子、共になんの罪もありません。私どもは肅々と、3蜜を避けて安全・安心に気を付けて、お預かりした子に充実した保育を続けます。

今後学校は、インフルエンザの対応のように、地域で感染者が増えれば学校閉鎖、落ち着けば開校というようなことを繰り返していくことでしょう。

現在学童クラブに通っている子の精神面と学力面はしっかりとチェックしておりますので、問題はないのですが、このところご家庭で過ごす子どもたちの精神面と学力面の状況が逆に心配になってきました。

よって長期的に見て遠隔授業やネット朝会は今後必須の条件となっていくと考えます。

ご家庭でタブレットやWi-Fi環境を揃えることは難しいのですが、学童保育では、それぞれの小学校の遠隔授業等をできるだけ視聴できるように、準備を進めています。

ただ小学校の一斉朝会などに参加することは、あまりにもクラス数が多く、同じ時間に集中することが予想されるため、一人一台のタブレット環境が用意できません。しかし、遠隔授業のネット配信については時間をずらして誰もがアクセスできるようにして参ります。知恵とアイデアを出して前向きに、チャンスにしていきたいと思います。

